東北工業大学の“今”を伝える広報誌

工大広報

2019年4月1日発行（年4回発行）

No.293
Spring 2019
2019年4月1日発行
（年4回発行）

ご入学おめでとう

新入生の皆さんへのメッセージ

新連載「学長と話そう」

今年も吹奏楽部による新春ロビーコンサートが行われました

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
創造から統合へ―仙台からの発進
東北工業大学

ご入学おめでとうございます

すべての時と場に　学びがあります

学長　今野（こんの）　弘（ひろし）

本学のスローガン「創造から統合へ－仙台からの発進」は、本学の建学の精神および理念を端的に表現したものです。新入生は、その意味を深く理解し、実践に努力を傾けてください。

「創造」とは、新しい知識や理論を見出すこと、方法、技術、製品そして環境や豊かさを造りだすことであり、人材育成も含みます。

「統合」とは、創造したそれらを、社会や人類に役立てることを意味しています。

仙台でそれを学び、仙台を出発点として未来にはばたくという意味です。

「創造」の実践には、日常の疑問や課題を発見し、それを納得するまで調べるという積極的な勉学姿勢が大切であり、「統合」という活動は、それを施す人の品性に大きく関わるので、社会に柔軟に、そして人にやさしく対応できる感性を養うことが大切です。

本学では、各人にその能力を付加し、成長させる環境、つまり学生目線に立った教育、課外活動、研究プログラムをはじめ、家族、同窓生や地域の方との協力体制、そして熱心な教職員など学びの環境を整えています。

学びは、学生時代の時間、身を置いている空間、すべての時と場にあります。

この大学で、みなさんが活躍する未来に向けて準備してください。

工学部長

大学生としての４年間で「自分発見」を！

小林（こばやし）　正樹（まさき）

電気電子工学科　教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生としての生活に大いに期待を膨らませていることと思います。これからの４年間、皆さんは人生の基盤となる自らの「専門」を学び、それを使いこなす力を身につけます。

社会は今、AIやIoTに代表される急速な情報技術の進歩によって、現実の世界とサイバー空間が融合し一体となった新しい社会に生まれ変わりつつあります。このような大きな変革の只中にあって皆さんは、その変化に柔軟に対応できる人材となるべく嘱望されています。そのために大学では、皆さんの個性を引き出し、それを伸ばして、変化の中でも生き抜く力を養う教育を実践しています。しかし、与えられるものを待つ受け身の姿勢ではいけません。大学では自ら考えて自分の責任で積極的に行動する自律性が求められます。あらゆることに興味・関心をもち、臆することなくチャレンジする姿勢を持ちましょう。そうすることで新しい知との出会いだけでなく、友人や先生方など社会との新しい出会いをたくさん経験することになります。それらを通じて皆さんは大きく成長します。これからはじまる大学生という自由で贅沢な時間がそれを可能にします。その先に皆さんは新しい自分を発見することになるでしょう。４年後のさらに先には、自分を磨くことのできる大学院も用意されています。今からそれも見据えて、そして自分の将来の姿を思い描きながら、これからの４年間を楽しく充実した時間として過ごされることを希望します。

ライフデザイン学部長

多世代の人々との交流を通して、自己の人間力を高めよう!

菊地（きくち）　良覺（りょうがく）

安全安心生活デザイン学科　教授

在学生はじめ教職員一同は、新入生の皆さまがライフデザイン学部に入学されたことを心より歓迎いたします。

ライフデザイン学部は、本学の50年を超える工学の歴史を継承しつつも、これからの社会の要請に応えられる文理融合型の教育方針を掲げ、2008年4月に開設され、今年で12年目を迎えます。少子高齢化社会を迎えている今日では、如何に持続的な社会構築を目指せるかが最大の課題であり、これからの社会を担うであろう皆さまにとっても必要不可欠に求められるテーマでもあります。ライフデザインの対象は個人から企業や地域社会までと広い領域であり、具体的には「ヒト・モノ・コト・場」の在り様の提案が求められます。

ライフデザインの世界をこれから学ぼうとしている新入生の皆さまにとっては、さまざまな地域や企業等での実践を通して、多くの世代を超えた方とのやり取りから、フィールドに潜む課題に気づく心と解決する気持ちを持つことが特に求められます。

そのための支援に関しては、多くの教職員や先輩学生からは勿論のこと、自らが積極的にフィールドに入り、やり取りを通して得られる新たな仲間がきっと皆さんをサポートしてくれると思います。在学中には、多くの仲間づくりを通して柔軟な対応能力を養い、知恵と技を持った人間力ある姿まで高められることを期待いたします。

工学部 電気電子工学科

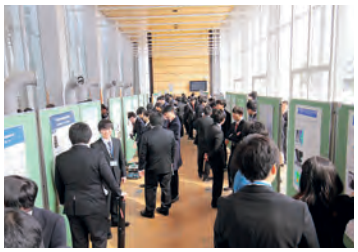
自分の可能性を信じて、日々邁進しよう

内野（うちの） 俊（たかし） 学科長　教授

ご入学おめでとうございます。本学科は、本学開設時から続いている伝統ある学科です。これまでに約8,000名の卒業生を輩出しています。本学科では、社会基盤の電気エネルギーを支える電気工学と、人工知能やIoTの出現によってますます注目されるようになった電子工学の専門分野を同時に学ぶことができます。実践教育と個の尊重をモットーに掲げ、教育活動に取り組んでいます。特に、幅広い分野の研究、資格試験支援講座、研究者早期育成プログラムなどを通して、一人ひとりの個性に合わせた教育に努めています。

大学は、自ら学び、自ら考え、自ら挑むところです。若い皆さんには、無限の可能性があります。目標に向かって一緒に頑張ることのできる友人を見つけ、充実した4年間を過ごすことを期待しています。

学外オリエンテーション（グループワーク発表）



卒業研修ポスター発表

工学部 情報通信工学科

未来の情報通信技術者のみなさんへ

工藤（くどう） 栄亮（えいすけ） 学科長　教授

ご入学おめでとうございます。IoT、AI、5G、4K/8Kなど次から次へと情報通信に関係する用語は生まれてきて、技術は常に進化し続けています。みなさんには、情報通信技術者として活躍してもらうために、単に知識を覚えることだけではなく、常に進化する技術を吸収し、問題に立ち向かい、解決策を創造する手法を身に着けてもらいたいと願っています。大学では、学問を体系的に学び、卒業研究を通じ、このような手法を養うことができますが、大学院に進学すれば、最先端の研究を担うことができるので、より一層磨くことができます。将来への夢を実現するために、今の段階から、ぜひ大学院への進学も選択肢の一つとして考えてみてください。

卒業研修ポスター発表会

大学院修士論文本審査会

工学部 建築学科

個性と多様な価値観を大切にする建築教育

石井（いしい） 敏（さとし） 学科長　教授

ご入学おめでとうございます。本年（2019年）は、過去10年間でも最多の新入生を迎えました。多くの個性と多様な価値観が溢れる本学科は建築を学ぶに相応しい環境です。皆さんの活躍を期待します。さて、工学部建築学科として歩んで53年。来年には建築学部建築学科が誕生する予定で、皆さんが工学部建築学科として最後の入学生となります。心配は不要です。建築学科は変わりません。変わるのではなく、さらに発展します。皆さんへの教育もさらに充実させます。社会が、そして建設業界で活躍する先輩が皆さんを見守ってくれています。自信をもって学んでください。そして建築学部への橋渡しをしてください。建築学科での4年間の学びの中では、乗り越えなければならない山がいくつもあります。だからこそ力も自信もつきます。仲間とともに励まし合いながら、有意義な大学生活を送りましょう。

建築学科全員での記念撮影（2018.9.24仙台国際センターにて）

工学部
都市マネジメント学科

自信と誇りと目標を持って充実した学生生活を

高橋（たかはし） 敏彦（としひこ） 学科長 教授

ご入学おめでとうございます。本学科の前身は、1967年に創設された土木工学科です。2003年に建設システム工学科、2011年に都市マネジメント学科へ名称を変更して現在に至っております。土木工学を教育基盤として、マネジメントとコミュニケーションの能力を持つ人材を育成する学科でもあります。卒業生は6,780名を超え、東北地方を中心に全国各地で公務員や民間企業の土木関連の職場で活躍をしております。防災・減災からインフラと呼ばれる道路、鉄道、上下水道、空港、港湾等私たちが安全で豊かな社会生活を送るうえで、必要不可欠な分野を学ぶ学科です。

大学生活4年間は、最も自由でそして人間的に大きく成長できる大切な時期です。自信と誇りと目標を持って、充実した学生生活を送ることを期待しております。

2018年度「都市マネジメント学科」の課外活動および成績優秀者の表彰式（2018.9.18）

平成30年度 工大杜の会（本学科卒業生）の集い
（卒業生と本学科在学生の一部）（2018.10.13）

工学部
環境エネルギー学科

SDGs 実現をめざして

山田（やまだ） 一裕（かずひろ） 学科長 教授

ご入学おめでとうございます。本学科は、持続可能な社会づくりにむけて、環境・エネルギー問題を工学的な視点を通して解決していくことをめざした学び場です。そして、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の実現に対しても大学の役割が認識されてきました。教育の他、エネルギーやまちづくり、海・淡水や生態系等の目標が幅広く掲げられ、本学科とのつながりも強いです。多様な背景や状況を抱えた問題を理解して、解決するには、工学的な視点や方法だけでは十分とは言えません。本学科で用意している多様な科目を活用して、コミュニケーション力、マネジメント力、そして科学的な思考力を養い、発言力のある自立した社会人として旅立てるよう、実直に学んでください。その学びの支えになりたいと教職員一同願っています。共に頑張りましょう。

1年生・バイオマス混焼火力発電所見学

ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科

デザインは君たちの可能性を広げる

坂手（さかて） 勇次（ゆうじ） 学科長 教授

ご入学おめでとうございます。クリエイティブデザイン学科は、その前身である工業意匠学科が開設された1967年から数えると50年以上の歴史を持ちます。その長い歴史と伝統を受け継ぎ、今年もまた新たに多くの新入生を迎えることができたことを大変嬉しく思います。デザインの語源はラテン語で「計画を記号に表す」という意味の「de+sign」だと言われています。デザインには「ある問題を解決するために思考の組み立てを行い、それを表現し伝えること」という意味があるそうです。それは、色や形のデザインに留まらない本質的なデザインの力です。皆さんには、幅広い領域の知識と高い専門のスキルを学ぶことで、デザインの力を活かし、これからの未来に広がるさまざまな成長産業で活躍できる創造型人間になってほしい。皆さんの熱意ある学びに期待しています。ともに頑張りましょう。

1 年生・アイデア基礎および同演習

ライフデザイン学部
安全安心生活デザイン学科

一歩　踏み出しましょう

小山（こやま）　祐司（ゆうじ）　学科長　教授

ご入学おめでとうございます。本学科は、ライフデザイン学部の学科として生まれ変わって12年目になります。前身のデザイン工学科時代を併せますとその歴史は50年余となります。新しい学科と成り、技術者としてだけではなく、生活者として意識して学び、社会に貢献できる人材を育成しています。本学科の教職員は、東北地方を中心として、さまざまな地域の人々の「くらし」や「住まい」に関わる研究や支援活動を行っております。諸君は、全く知らない現場に教職員と一緒に関わりながら、さまざまな体験することになります。そして、自ら、観察し、行動し、失敗を経験し、多くの気付きを体験しながら成長することでしょう。学科教職員は、精一杯、応援いたします。新入生諸君が、時には大失敗を経験しながらも、1歩、未知の世界に踏み出されることを、大いに期待しております。

雄勝MORIUMIUSを学外授業で見学

雄勝 MORIUMIUS 内部を見学

実習科目での屋台製作

ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科

目標は「できるビジネスパーソン」

岡部（おかべ）　雅夫（まさお）　学科長　教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。経営コミュニケーション学科は、2008年に設立された、皆さん同様、今まさに成長期にある若々しい学科です。皆さんは、本学科で、実社会で必要になる経営、コミュニケーション、ICT関連の科目を幅広く学ぶとともに、それらを実際に活用できるよう統合化するためのより実践的な科目を学びます。また、いわゆる学業だけでなく、学生時代でなければ経験できないさまざまなことにぜひ積極的にチャレンジしてください。いろいろなことに、悩み、苦しみ、もがき、そして、楽しんでください。それらすべては社会に出てから必ず役立ちます。皆さんが実り多い学生生活を送り、「できるビジネスパーソン」として社会で活躍できるよう、経営コミュニケーション学科教職員一同、全力で応援します。

卒業研修ポスター発表会

共通教育センター

より大きな枠組みの中で考える姿勢を

高橋（たかはし）　哲徳（てつのり）　共通教育センター長　教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。共通教育センターは「共通教育=general education」を担当する組織です。「general=総合的」という言葉は、何かに特化して教育・研究を行うのではなく、われわれが住む世界の自然、文化、歴史、政治などについて、広く深く学び探究する姿勢を表しています。したがって、共通教育センターの務めは、皆さんが大学で学ぶ専門分野の諸問題を、時間的（過去・現在・未来）、空間的（地域・国・地球）に、より大きな枠組みの中で考えるための知的な場を提供することだと言えます。大学という新しい環境での学びの方法から、卒業後に一人の人間としていかに生きていくべきかという問題まで、皆さんが本学でより多くの事柄を吸収できるよう、共通教育センターがサポートします。皆さんが4年間で大きく成長することを期待しています。

学園祭「ものしりクイズ大会」参加者の皆さんと

研究室で学んだこと

工　学　部	電気電子工学科	辛島彰洋研究室

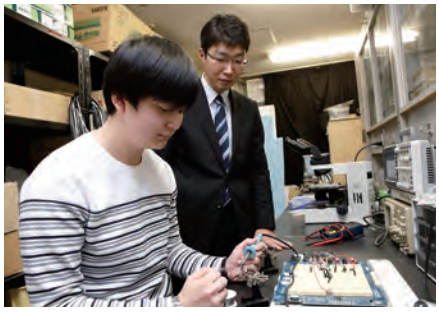
誰もが簡単に使える「呼吸センサ」を目指します！

辛島（からしま）　彰洋（あきひろ）　准教授
柳田（やなぎだ）　琢杜（たくと）

辛島　今回、呼吸数を手軽に、そして安価に測ることができる呼吸センサの研究を行ってみて、どんなことを感じましたか。

柳田　率直にいって、1、2年生のときに習ったことが、こんなに必要になるとは思っていませんでした。基礎の大切さを実感したというのが1つです。そして、何度も難しい課題にぶちあたって、立ち止まりそうになりましたが、なんとか乗り越えることができてよかったと思っています。

辛島　柳田君は最初、すぐにアドバイスを求めようとしていたけれど、いまは「まず、自分でなんとか解決しよう」という姿勢に変わりました。成長を感じます。



磁気信号を用いたウェアラブル呼吸センサの研究は大学院でも続けられる

柳田　ありがとうございます。うれしいです。

辛島　呼吸センサというものは、すでにさまざまなものがあります。それらは睡眠時のように安静にしているときだけ測定できるもので、柳田君は歩いたり、走ったりという活動を含めた日常生活をしているときも、身体の動きの信号はキャンセルして、呼吸の信号だけを抽出できるセンサにしたかったわけだから、いろいろと苦労もあったと思います。

柳田　でも「サイエンス・インカレ」※への出場権も獲得できたので、これから、このセンサをより使いやすくしていこうという意欲が湧いてきました。

辛島　心身ともに健康な人というのは、ゆっくりと呼吸をしているということがわかってきています。「呼吸数を測ると、このような身体の状態も分かる」ということがもっと解明されれば、このセンサもさらに普及していくと思うので、安全性も含めて「誰もが使いたくなるセンサ」に仕上げていくことが大切です。

柳田　はい。大学院でもこの研究を続けていきたいと思います。

※サイエンス・インカレ…科学技術イノベーションの推進・持続的発展を目的に、文部科学省が設けた自然科学分野を学ぶ全国の学生が自主研究の成果を発表、競い合う場。

工　学　部	情報通信工学科	野本俊裕研究室

夢のIoT※を自分で設計、完成させた達成感が自信に

野本（のもと）　俊裕（としひろ）　教授
佐々木（ささき）　康恩（よしのり）

佐々木　僕は「モノのインターネット」といわれるIoTに興味があって、もっと理解を深めたいと思い、野本先生の研究室に入りました。

野本　この研究室のテーマは「電波を使ったものづくり」なので、佐々木君が目指すものにぴったりだったと思います。

佐々木　先生のご指導のおかげで、身の回りの家電のリモコンを1つに集約、それをスマートフォンで遠隔で操作してテレビや照明を点ける仕組みをこの手で完成させることができました。

考え抜いた末にたどりついたアイデアに、いつもワクワクします

野本　自分の頭で考えて、自分でつくったものは、誰にもコピーできません。オンリーワンであり、ナンバーワンなんですよ。

佐々木　そうですね。つくっている途中、発表会という形で経過報告をしたのですが、先生から思ってもみなかった指摘や質問を受けると返す言葉がなく、自分の考えが浅はかなことを思い知りました。でも、がんばって考え抜いて、新しいアイデアを思いつくとワクワクして楽しかったです。完成したいまは、「あきらめなくてよかった」と心から思っています。

野本　完成までに、たくさんの壁にぶちあたり、それでも何とか自分で乗り越えていくのを見て、成長したなと感じていました。

佐々木　ありがとうございます。自分では、この研究室で学ぶことで視野が広がったと思っています。IoTという言葉は知っていても、その恩恵を実感している人はまだまだ少ないと思うんです。それはなぜかと考えたとき、IoTは「誰もが気軽に使える」とは、まだ言えないということに気づきました。

野本　社会に出ても、まず自分の頭で深く考えて課題解決を試みること、失敗しても次のアイデアを考えること、そして挑戦することを忘れないようにしてください。

佐々木　はい、がんばります。

※IoT：Internet of Thingsの略

工　学　部 | 建築学科 | 中村琢巳研究室

地域が生んだ建物の歴史を読み解き、未来へ伝える

中村（なかむら）　琢巳（たくみ）　講師　／　吉岡（よしおか）　徹（とおる）（左）／工藤（くどう）　さくら（右）

中村　地域のシンボルとなっている民家や寺社など、貴重な伝統建築のフィールドワーク、そして図面や古文書などの資料調査を通して、日本建築の価値発見とその価値を高める保存修復、そして適切な活用などに取り組んでいます。

吉岡　フィールドワークで、建築物の観察や図面起こしを経験し、構造の細部を知ることができました。この体験は、将来、建築士として図面を引くうえで、現場を考えた設計などに役立てられると感じています。

フィールドワークなど現場での経験が研究や設計にも活きています

中村　設計の基本は、正確な図面を作成することが大切ですが、フィールドワークでの良質な歴史的建造物の実測調査やスケッチが大変良いトレーニングになっていると思います。

工藤　弘前の伝統建築の調査で、建物の調査だけではなく、そこに住んでおられる人々の話を聞けたことが重要でした。伝統的な建物に住む喜びや大変さなど、実際の声を聞けたことは大変刺激になりました。

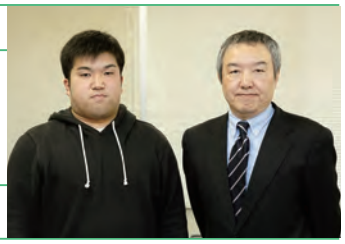
中村　学生としては、学内の授業だけではなく、調査を行い話を聞くことで、自分たちがかかわる家づくりやまちづくりを実感できるのではないかと思います。

吉岡　私は、卒業設計で、弘前の自然と地域特性に着目した設計を行ったのですが、その基になったのは、地元の樹木医さんの話など、フィールドワークで得た調査体験でした。

中村　これからますます求められるのは、地域の特性を活かした建築です。建築史は、工学の中でとても文系的。設計や施工だけでなく、自然との共生や保存など、興味があるさまざまな方向からのアプローチを試してほしいと思っています。

工　学　部 | 都市マネジメント学科 | 小出英夫研究室

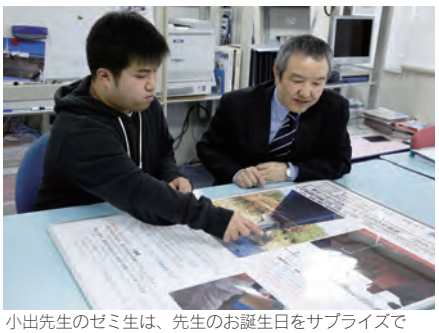
手順を組み立てる訓練を重ねて、その大切さを学びました



小出（こいで）　英夫（ひでお）　教授　／　伊藤（いとう）　竜弥（りゅうや）

伊藤　小出先生には1年のときから4年間、大変お世話になりました。おかげさまで、論文も完成させることができました。

小出　伊藤君に限らず、研究室のメンバーは最初、論文のフォーマットから何からめちゃくちゃで（笑）。何度、注意しても直ってこなかったりしましたが、後半はみんな研究にのめり込んで、実験方法や論文の表現にもこだわり出すので、実は私は内心「よかった」と毎年、思うんです。人の命に関わる工学を学ぶ学生としては、何をするときでも細部にこだわってほしいという思いがあるからなんです。



小出先生のゼミ生は、先生のお誕生日をサプライズでお祝いするのが伝統なのだとか

伊藤　はい、肝に銘じます。小出先生は、コンクリートの引っ張りに対する性質を調べたり、地震予知に関する解析などを行っていますが、僕は橋梁の点検支援装置「診れるんです」を研究テーマに選び、いろいろな面で勉強になりました。研究室のみんなと、実際に橋梁の検査に出かけたときは楽しかったです。

小出　共同開発を行った企業の方と橋梁の検査をするために、1泊2日で山形に出かけたときですね。

伊藤　はい。みんなでいろいろな話をすることができました。「診れるんです」は、調査することが難しい橋の裏側の状態をカメラで撮影することで、コンクリートのひび割れなどを見つけようというもの。ですから、僕はどれくらいの明るさ（暗さ）までカメラで撮影ができるかを調査したのですが、実験条件をどう定義するのかとか、論文を読む人に、内容をきちんと伝えるための言葉づかいまで、ものすごくこだわって考えました。

小出　しっかりと手順を考えてまとめることは、どんな場面でも役に立つと思います。卒業後は建設会社で1から学び、現場に携わる方のリーダーになれるようがんばってください。

伊藤　ありがとうございます。がんばります。

工　学　部 | 環境エネルギー学科 | 丸尾容子研究室

学んだのは議論するおもしろさ、ていねいに進めることの大切さ

丸尾（まるお） 容子（やすこ） 教授　齋藤（さいとう） 智輝（ともき）

丸尾　齋藤君は企業との共同研究を経験することで、きちんと計画を立てて実験を進めたり、期限内に報告書をまとめたりできるようになりましたね。

齋藤　振り返ってみると、僕が取り組んだ研究は、とてもやりがいがあったと思います。例えば、お年寄りは病気の検査や予兆を調べるのに、病院に通ったり、何度も注射をしたりするのは身体に負担がかかります。このような検査が自分の呼気を使って、自宅でも調べられるようになったら、それは画期的です。

企業と連携することで、スピード感のある研究ができました

丸尾　表面にナノサイズの穴がたくさん空いたチップを使って、おもに肺がんマーカー物質の候補とされているノナナールを呼気から検出することを目指したわけですが、何が大変でしたか。

齋藤　ノナナールを検出するには、ある程度のアルカリ条件が必要なのですが、このアルカリ性の適切な濃度を見つけるのが難しかったです。ただ、先生や大学院生の先輩たちとディスカッションしながら進められたことはとても楽しかったですし、実験の過程を企業の方にきちんと説明できるように、綿密な計画を立てて実行していったので、充実感もありました。

丸尾　「耐アルカリ性多孔質ガラスを用いたノナナール検出チップの研究」に、最初から共同開発の相手である企業の知的財産として取り組めたことも、いい勉強になりましたね。

齋藤　はい。卒業後は車両のメンテナンスに関わる仕事に就きますので、この研究室で身につけた責任感や、一つひとつ積み重ねることの大切さを活かしていきたいです。

丸尾　自分で考え、実行して、人生をやりがいのあるものにしてください。そして、「やりがいのある人生はおもしろい」と、後輩たちに伝えてほしいです。

齋藤　わかりました。

ライフデザイン学部 | クリエイティブデザイン学科 | 盧慶美研究室

「自分で定義すること」の難しさを学びました。

盧（の） 慶美（きょんみ） 准教授　齋藤（さいとう） 碧（あおい）

齋藤　ぬいぐるみをつくろうと思ったきっかけが、親戚に子どもが生まれたことだったんです。おもちゃをプレゼントしようと探していたのですが、デザインやクオリティを満足させるものに出会えず、「自分でつくってみよう」と思い立ちました。

盧　いとこたちにプレゼントできる安全で楽しい、オリジナルのぬいぐるみを完成することができて、よかったですね。

齋藤　先生のアドバイスで、対象年齢を「1歳から3歳」と絞り込んだことで、より一層、誤飲に結びつくような装飾をしない、鮮やかな色味を使って感性を刺激するといった特徴を明確にすることができました。

ウサギ・サメ・ネコ・シロクマ・イヌ・ライオン6種類のぬいぐるみ。テキスタイルもオリジナル

盧　安全性の確保は基本ですが、それだけにとらわれると遊んで楽しいとか、ふれて気持ちいいと感じるものにはなりませんので、中にあずきを入れて振ると音が出る、さわり心地のよい柔らかい布地を採用するというように、いろいろな工夫を施したのもよかったと思います。

齋藤　先生は染色の専門家なので、特に「色」に関してはたくさんのアドバイスをいただくことができ、感謝しています。

盧　子どもは、カラフルな“色”から沢山の刺激を受け、感受性豊かに育ってくれるんです。

齋藤　ぬいぐるみのおなか側の布地は、テキスタイルのデザインもやらせてもらったので、とても勉強になりました。また、最も苦労したのは、デザインのコンセプトづくりでした。「北欧風」とは決めたものの、その明確な定義がなかったので、北欧について調べて「鮮やかな色づかい」と「ムダのないデザイン」と定義して進めました。たくさん考えて、それをカタチにできたことは、自分でも成長できた点ではないかと思います。

盧　実際の生活の中で活かせるものが提案できたことは、とても良かったと思います。お疲れさまでした。

ライフデザイン学部 | 安全安心生活デザイン学科 | 畠山雄豪研究室

人と人とのつながりから新しい発見を得ました

畠山（はたけやま） 雄豪（ゆうごう） 准教授　結城（ゆうき） 梨奈（りな）（左）／田村（たむら） 和真（かずま）（右）

畠山　この研究室のテーマの1つである「地域防災」というものを、マクロとミクロ、それぞれの視点から捉えてくれたのが2人だったわけですが、まずマクロ＝大きい視点で捉えてくれた結城さんは、どんな点が大変でしたか。

結城　「仙台らしい景観とは何か」について、私と同世代の人たちを対象に調査したのですが、商店街、オフィス街、住宅地と、とにかくたくさん歩いて体力も使いました（笑）。市内在住の人とそうでない人では印象が分かれたりして、特徴がつかみづらかったのも苦労した点です。

学生が主体となって研究を進める畠山ゼミ。自然に学生同士が協力し合う雰囲気も生まれた

畠山　仙台らしい景色の1位は伊達政宗騎馬像でしたね。

結城　はい。今回の調査は基礎的なものだったので、大学院に進んで範囲を東北に広げ、地域防災にも深く関連する「まちの景観」というものをもっと掘り下げていきたいと思っています。

畠山　田村君はミクロ＝細かい視点で「地域防災」を捉えてくれたのですが、岩手県の田老地区というコミュニティの変化を調査して、どんな点が興味深かったですか。

田村　今回の震災以前にも、津波被害を受けてきた歴史のあるコミュニティの変化を、住民の方にお話を聞くことを中心に調べさせていただきました。3回の大津波を経験した90歳の方をはじめ、さまざまな年代の人と話すことができ、その方から次の方を紹介してもらって、深く広くお話が聞けたことに、人と人とのつながりから新しい発見ができることを実感しました。

畠山　2人の視点は、しっかりと外に向いていましたね。

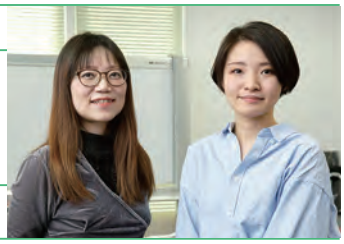
田村　何しろ、先生がアグレッシブで、出張にゼミにと奔走されている姿を見ていたので、それを見習いました。

結城　先生、お体に気をつけてくださいね。

畠山　今年はがんばりすぎました。今後は少し注意します（笑）。

ライフデザイン学部 | 経営コミュニケーション学科 | 佐藤飛鳥研究室

先行研究や事前準備の大切さを実感しました



佐藤（さとう） 飛鳥（あすか） 准教授　浅野（あさの） 希莉奈（きりな）

浅野　仙台市にある榴岡天満宮で巫女さんのアルバイトをしていたこともあり、震災後にこの天神さまで始まった「みんなの市」に、もっと人が集まる方法はないものか…と思ったのが研究の始まりでした。先生にこのことを話したら「それはみんながハッピーになるね」といっていただけて。

佐藤　榴岡天満宮という歴史ある天神さまが、地域コミュニティの中心となり、地域活性化に力を発揮することは、そこで育っていく子どもたちにとっても意味があることだと思いました。

集客のためのポスターやホームページのデザインを提案。ポスターが採用された

浅野　その後、「みんなの市」の実行委員メンバーに期限付きでならせてもらい、集客のアイデアを提案したり、「みんなの市」のポスターをデザインしたりしたのですが、受け入れてもらうまでに時間がかかってしまったのが苦労した点です。

佐藤　地域のことを十分にわかっている方に、新しい取り組みを理解し、実行していただくのは簡単なことではありません。

浅野　最初は口頭で説明していたのですが、書面にしてお渡ししたんです。すると皆さん、その紙にメモをとり、持って帰ってくれるようになりました。これらの経験から、自分の力だけではどうすることもできないことがあるということ、話に耳を傾けていただくには工夫が必要なことを学びました。

佐藤　自分がよいと思ったことでも、価値を共有してもらえるとは限りません。それを実感できたのは、よい経験でしたね。

浅野　はい。先生が指導してくださった、研究テーマに関する書籍や文献を30冊以上読む「先行研究」もためになりました。

佐藤　うまくいくプロセスが、すでに明らかになっているものは、その通りにやった方が効率がいいですからね。

浅野　下調べを含む事前準備の大切さを実感した研究室でした。

佐藤　この経験は、社会に出てからもきっと役立つと思います。

新連載 学長と話そう

普段あまり話をする機会がない学長と学生たちが、学長室で近況報告や意見交換を行う座談会を開催。第一回は、課外活動に励む学生を代表して4名に集まってもらいました。

Vol1.「学生生活と課外活動」

工学部建築学科　澤田 充さん　（TICK（国際交流・留学支援サークル）設立）
工学部情報通信工学科　武内 涼真さん（サッカー部代表）
工学部都市マネジメント学科　尾崎 文香さん（弓道部・元副主将）
工学部都市マネジメント学科　古里 恭兵さん（プロボクサー）

部活やサークルなどの課外活動は、日々の学生生活をより充実したものにしてくれます。今回は、活動を通してさまざまな経験をしている4名の学生と、本校弓道部出身の今野 弘学長が、「学生生活と課外活動」をテーマに意見交換をしました。まずは、自己紹介を兼ねた活動報告からスタートです。

在学中に何かをやり遂げたい

武内さん　僕が所属するサッカー部は、週に6日のペースで活動しています。新しいグランドを造っていただいたり、試合のときは応援に来ていただいたりと、大学のサポートをとても感じているので、東北地区大学サッカーリーグの1部に昇格して、恩返ししたいと思っています。

尾崎さん　私は、大学1年生の夏から弓道部に所属しています。部員のみんなに支えられて、女子の責任者や副主将などの役職にも就かせていただきました。今は国体にも挑戦しています。

古里さん　今年1月31日にプロテスト（C級）を受けて合格し、プロボクサーとしてがんばっています。まだプロとしての試合は決まっていませんが、今年中にはやりたいと思っています。

澤田さん　僕は、国際交流や留学支援の活動を行うTICK（Tohtech International Club Kakehashi）というクラブを昨年設立して、代表を務めています。1年次に外務省主催の「カケハシ・プロジェクト」に参加させていただき、留学を1度きりのものにせず、継続的に国際交流活動ができる場をつくりたいと思ったのがきっかけです。今後の展開として、大学にいる留学生と協力しながら通訳ボランティアをしたいと思っています。

学長　古里くんは大学に入ってからボクシングを始めたとか。きっかけは何ですか。

古里さん　大学に入ってからしばらくは大学とアルバイトだけの生活だったのですが、代わり映えしない毎日がいやになって。もともとスポーツが好きで、大学在学中に何かをやり遂げたいと思っていたこともあり、いとこがやっていたボクシングに興味を持ったのがきっかけです。ボクシングだけでなく、人間的にも強くなりたいという思いもありました。もともと、自分は不良でもないし人を殴るのは好きではないのですが。

一同　（笑い）

学長　武内くんは昔からサッカーをやっていたと思いますが、大学での活動はどうですか。

武内さん　サッカーは小学校2年生からです。高校までの部活とは違って、大学の場合は練習時間もそれほど長くないですし、終わってから続けるか帰るかは自分の判断になるので、チームワークだけでなく自主性も大事だと感じています。

目標となる指導者の存在が刺激に

学長　尾崎さんは大学に入ってから弓道を始めたのですよね。

尾崎さん　はい。もともと弓道という競技に興味があったのですが、中学・高校には弓道部がなかったので、大学に入って弓道部の存在を知り思い切って入部しました。3年生になったときに国体の存在を知って、自分の実力も知りたかったので宮城県の国体選考会に参加して、夏には宮城県代表としてミニ国体にも出場させていただきました。

学長　大学から弓道を始めたのは僕も同じです。大学から始めて国体選手になるというのは非常にセンスがいいですね。弓道部の指導者は現役の国体選手ですから、その影響もあったのでしょうか。

尾崎さん　指導者が国体選手ということは知っていて、射を見ていても自分には手が届かない世界だと思っていました。でも、指導を受ける中で「筋がいい」と褒められたり、周りの方に国体の選考会の話もいただいたりするうちに、自信がついてきました。

学長　目の前に目標になる方がいるというのは非常にいいことですね。

尾崎さん　刺激になります。

学長　本校には多様な能力を持った学生が入学しますが、皆さんの感性と能力を育てる環境として、企業の人や卒業生に授業をしていただくことがあります。それは、皆さんに将来の姿をイメージしてもらいたいと考えているからです。クラブ活動も同じで、要望があればできるだけ実績のある指導者にお願いして環境を整えたいと思っています。その点では、澤田くんの場合、自分たちで設立して行動しているわけなので、大変な部分もあったでしょう。

澤田さん　そうですね。自分たちは運動部ではないので、活動内容がはっきりと決まっているわけではなく、先輩もいないので、自分が上になって引っ張るしかないという部分では大変でした。でも、その経験が自信につながりました。

チャンスを生かして成長できた

学長　学年や学科が違うと、同じ大学でもあまり会わないし言葉を交わす機会もありません。でも課外活動というのは、学年や学部が違う学生同士が共通の目標を持って活動したり将来について話し合ったりできる。そこに良さがあると思います。本校には「創造から統合へ」というスローガンがありますが、「統合」というのは、「人のため、社会のためになる」という意味。人間性を鍛える、人のためになるんだという気持ちを高めることは、授業科目を勉強するだけでは難しいんですよね。皆さんは、課外活動を通してどんなところで人間性が高まったと感じているのでしょうか。

澤田くんも参加したカケハシ・プロジェクトでは、学生がみんな見違えるほど成長してアメリカから帰ったという報告を受けていますよ。

澤田さん　そうですね。実は僕自身、大学に入ったときは周りと比べたりして劣等感を持っていたんです。でも、この大学にはいろんな経験ができるチャンスがたくさんあって、それを生かした課外活動をすることで一回りも二回りも成長できたと感じています。それは、熱心な先生の存在と大学のバックアップ体制のおかげです。今、ここまで自分に自信が持てるようになったのは、課外活動を通した経験が大きいと思います。

尾崎さん　私は、国体に参加した経験が部活に生きていて、部員に対して自分の経験から何か伝えられることはないかを考えたり、国体を通して感じたことを練習に取り入れてみたり、気持ちの強化を意識したりと、自分だけなくみんなが強くなれるように考え行動するようになりました。結果的にみんなのレベルが上がり、私自身もいい成績を残せました。

大学のサポートに感謝しています

学長　せっかくの機会なので、大学側にお願いしたいことはありますか。要望にすべてこたえられるわけではありませんが、検討しますので声を上げてください。

武内さん　新しいグラウンドもできてとても感謝しています。あとは、上半身を鍛える筋トレマシンの種類がもう少しあると助かります。

学長　古里くんの場合は学外の活動ですが、大学側でできるサポートはありますか。

古里さん　大学の応援にはすごく感謝していて、モチベーションにつながっています。サポートという部分では、スポンサーを…。トランクスに入れるスポンサーを募集中です！

みんなの課外活動

サッカー部
武内 涼真さん所属

「チームワークを武器にリーグの1部昇格を目指します。やる気のある人は大歓迎です」

弓道部
尾崎 文香さん所属

「昨年は、東北地区秋季女子学生弓道大会で団体準優勝の結果を残すことができました」

プロボクサー
古里 恭兵さん

「日曜以外ほぼ毎日ジムで練習。昨年は宮城県民体育大会ボクシング競技で優勝しました」

TICK（国際交流・留学支援サークル）
澤田 充さん所属

「外国人留学生との交流やサークルメンバーの留学支援を目的に活動しています」

平成30年度課外活動優秀者表彰式

平成30年度に体育または文化活動等の課外活動において、優秀な成績を収めた団体と学生個人の栄誉を讃える表彰式が、2月13日（水）八木山キャンパスで行われました。

課外連加盟団体に所属する学生約100名と多くの教職員が見守る中、今野学長と小泉後援会長から表彰状と副賞が授与された後、受賞者に向けてお祝いの言葉が贈られました。

表彰された団体や学生個人だけではなく、式を見守った学生たちにとっても、来年度の活動への意識が高まる表彰式となりました。

[学内団体]

クラブ名	大会名または活動内容	成績など
弓道部	（男子）第58回東北地区秋季学生弓道大会Ⅲ部リーグ戦 （女子）第48回東北地区秋季女子学生弓道大会Ⅲ部Bリーグ	（男子）団体第2位 （女子）団体第2位
硬式野球部	平成30年度仙台六大学野球春季リーグ戦	第3位
サッカー部	第19回東北地区大学サッカー選手権大会兼平成30年度第42回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選	第3位
準硬式野球部	平成30年度東北地区大学体育大会（準硬式野球の部）	準優勝
ヤギプロジェクト	アンダンチプレオープン、ヤギ小屋づくりイベント、荒浜小学校草むしりイベント、学魂祭、八木山フェスタ、仙台若者アワード等へ参加	学外イベントに積極的に参加し、ヤギがいる大学として本学の知名度向上に貢献した。
報道部会	在仙他大学との交流、学内での積極的な取材活動、工大ジャーナルの定期発行、報道部ウェブサイト・SNSでの情報発信、その他学外イベントへの参加	学内外で熱心な取材活動を行い、学生・教職員、その他学外へ向けて本学の情報発信を行った。学外イベントにも積極的に参加し、本学の知名度向上に貢献した。

[個人（学内・学外）]

氏名（学科・学年）				大会名または活動内容	成績など
工学部	薄井　晶子	（電子工学専攻）※学部4年生在学時（3月）の受賞内容	1年	文部科学省主催　第7回サイエンス・インカレ口頭発表部門	サイエンス・インカレ・コンソーシアム参加企業賞（畠山文化財団賞）
	武内　涼真	（情報通信工学科）	2年	第43回東北地区大学サッカーリーグ兼第67回全日本大学サッカー選手権大会東北地区予選　2部B	アシストランキング 第1位
	久保　京太	（情報通信工学科）	3年	平成30年度仙台六大学野球春季リーグ戦	ベストナイン（外野手）
	遠藤　輝人	（情報通信工学科）	3年	ブレイン-コンピュータ・インタフェース　プログラミングコンテスト Brain-Computer Interface Hackathon at IEEE SMC 2018	1st Brain Prize IEEE Brain Prize
	平間　圭悟	（情報通信工学科）	3年	平成30年度東北地区大学体育大会　水泳の部	男子２００Ｍ平泳ぎ　第８位
	中村　麗	（建築学科）	1年	平成30年度東北地区大学体育大会　水泳の部	男子200M個人メドレー　第6位
	河崎　海王	（建築学科）	2年	仙台市軟式野球協議会主催　仙台サンデーリーグ	1部2位　優秀選手賞
	兼子　太希	（建築学科）	2年	第69回東北地区大学体育大会陸上競技大会　走高跳	第8位
	小島　隼人	（建築学科）	3年	第43回東北学生アメリカンフットボール連盟リーグ戦2部第3節	敢闘賞
	吉田　鷹介	（建築学科）	4年	日本建築学会設計競技	支部入選・タジマ奨励賞
	湯村真梨奈	（建築学科）	4年	ミス・ユニバース・ジャパン宮城県大会	4位入賞（ファイナリスト）
	佐藤　大樹	（建築学科）	4年	日本建築学会設計競技	支部入選
	宍戸　且典	（建築学科）	4年	日本建築学会設計競技	支部入選
	藤巻　一真	（建築学科）	4年	日本建築学会設計競技	支部入選
	吉岡　徹	（建築学科）	4年	日本建築学会設計競技	支部入選
	近石さゆり	（都市マネジメント学科）	2年	日本ダンス技術認定機構第4回グランドマスター	最優秀賞
	芦　智稀	（都市マネジメント学科）	2年	平成30年度東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦2部リーグ	最優秀投手賞　ベストナイン（投手）
	齋藤　陸斗	（都市マネジメント学科）	2年	・平成30年度東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦2部リーグ ・平成30年度東北地区大学準硬式野球秋季リーグ戦2部リーグ	・敢闘賞 ・ベストナイン（遊撃手）
	尾崎　文香	（都市マネジメント学科）	3年	・第48回東北地区秋季女子学生弓道大会Ⅲ部Bリーグ ・国民体育大会宮城県代表団選出	個人第2位
	岡部　晃之	（都市マネジメント学科）	3年	平成30年度東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦2部リーグ	ベストナイン（一塁手）
	古里　恭兵	（都市マネジメント学科）	3年	平成30年度宮城県民体育大会ボクシング競技会	成年バンタム級　第1位 （東北総合体育大会選出）
ライフデザイン学部	渡部　将隆	（クリエイティブデザイン学科）	1年	国民体育大会宮城県選手団選出	フェンシング競技
	佐々木恵太郎	（クリエイティブデザイン学科）	3年	JAGDA学生グランプリ2018	優秀賞
	伊藤　胡桃	（クリエイティブデザイン学科）	4年	東日本冬季AP・FP・HR射撃競技大会	AP60W 1位
	阿部　柚希	（クリエイティブデザイン学科）	4年	東北電力学生ショートムービーコンテスト 「TOHOKU LOVE 2018 GAKUSEI MOVIE CONTEST」	・特別賞 ・オーディエンス賞
	佐藤　汰一	（安全安心生活デザイン学科）	1年	第22回東北学生弓道新人戦	個人第3位
	後藤　裕弥	（安全安心生活デザイン学科）	1年	平成30年度仙台六大学野球秋季リーグ戦	優秀新人賞
	藤　航瑛	（安全安心生活デザイン学科）	1年	平成30年度東北地区大学準硬式野球秋季リーグ戦2部リーグ	ベストナイン（捕手）
	佐藤　洸雅	（安全安心生活デザイン学科）	3年	平成30年度仙台六大学野球春季リーグ戦	最優秀投手賞
	佐藤　寿樹	（安全安心生活デザイン学科）	3年	平成30年度仙台六大学野球春季リーグ戦	敢闘賞
	石川　敬唯	（経営コミュニケーション学科）	1年	平成30年度東北地区大学準硬式野球秋季リーグ戦2部リーグ	ベストナイン（一塁手）

団体の部

サッカー部

感謝と決意

武内（たけうち）　涼真（りょうま）
情報通信工学科　2年

この度は、このような賞をいただき大変光栄に思うとともに、ご指導いただいている草野修治監督をはじめ、関係者の方にこの場を借りて感謝申し上げます。

サッカー部が強化指定部となり2年が経ちますが、目標である「1部昇格」と「総理大臣杯出場」をあと一歩の所で果たせていません。今年は目標を達成できるように、結果にこだわって活動していきます。

今後とも、サッカー部へのご声援の程、よろしくお願いいたします。

報道部会

為せば成る

萩野（はぎの）　暁（さとし）
情報通信工学科　3年

創部55年の節目にして、このような賞を受賞でき大変光栄に思います。当団体は、ニュース記事の執筆と学内外向けラジオ番組の制作を主として活動しています。

その中でも昨年度は、記事の執筆に力を入れました。記事は、取材・執筆・校閲という手順を踏み、一般に公開されます。特に「校閲」という作業は、記事の些細なミスを見つけるなど一番肝となる作業です。

今後は、学生が短時間でも読める記事の執筆に力を入れていきたいです。

個人の部

硬式野球部

プロ入り（ドラフト）を目指して

佐藤（さとう）　洸雅（こうが）
安全安心生活デザイン学科　3年

この度は、このような賞に選出いただき大変光栄に思います。硬式野球部としてチーム全体が一つになったことにより、このような結果を出せたと思っております。

これからのリーグ戦でも勝ちにこだわり、なおかつ自分自身の目標であるプロ入りを目指し、個人成績も結果が残せるように頑張りたいと思います。

東北工業大学初のプロ野球選手になれるよう努力していきます。今後とも硬式野球部へのご声援のほどよろしくお願いいたします。

弓道部

感謝の気持ちを込めて放つ矢

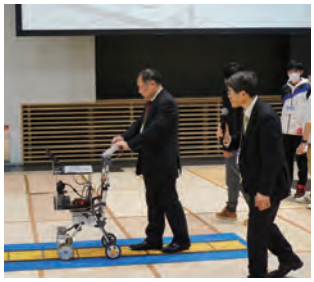
尾崎（おざき）　文香（あやか）
都市マネジメント学科　3年

この度、課外活動優秀者に選出いただき、とても嬉しく感じるとともに光栄に思っております。また、活動に際して支えてくださった全ての皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。

昨年度は、弓道部としての活動のほかに県代表の国体選手として貴重な体験をさせていただきました。県を背負うという今まで感じたことないプレッシャーに潰されそうになったことも何度かありましたが、部員や国体関係者のサポートもあり精神面・技術面で大きく成長してミニ国体を迎えることができました。また、秋の大会でも部のサポートのおかげで自分の弓道ができた結果、準優勝という高みまで登れました。この2つの結果は私一人では成し遂げることはできませんでした。

大学から弓道を始めたので未熟な部分もありますが、今後は目の前の課題を一つ一つクリアしながら弓道の技術を高めていきたいと思います。

◆「産学官金連携フェア2019みやぎ」への出展報告


丸山先生によるロボット実演

仙台国際センターにおいて、1月22日(火)に開催された「産学官金連携フェア2019みやぎ」に、本学からは、工学部電気電子工学科・丸山次人研究室、工学部環境エネルギー学科・丸尾容子研究室がそれぞれ出展しました。

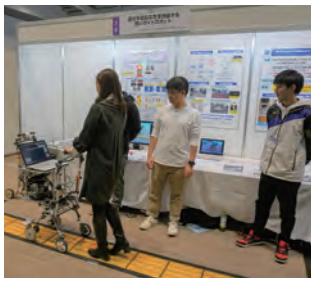
丸山研究室からは、「目の不自由な方を誘導する賢いガイドロボット」を出展し、ガイドロボットによる、ブースに敷かれた3mの点字ブロックに沿った自律移動・停止の体験デモを行い，多くの方にロボットの誘導を体験いただきました。さらに、ロボット実演コーナーにおいても同様の実演を行い、聴衆の興味・関心を集めました。

丸尾研究室からは、「呼気分析を目指した分析チップの研究開発」を出展し、研究について説明したパネルや資料と、実際に使用する分析チップを展示し、病気とわかる場合どのような反応を見せるのか、ブースにて来場者に見ていただきました。

当日は、多くの来場者の方がブースを訪問いただき、研究説明をした学生にとっても、産学連携の体験、来場者との交流を深めるなど、貴重な機会となりました。

本展示会出展に向け、各研究室の学生に搬入・搬出および当日のブース対応に多大な協力を得て、無事展示会を終了することができました。今後も、県内の企業や研究機関、金融機関が一堂に会する場を有効活用し、さらなる研究促進、産学官金との連携を推進していきます。

丸尾先生のブース展示


丸山先生のブース展示

◆「復興大学」2018年度の振り返り ＆ 2019年度も開講します

復興大学は、震災直後から、「復興人材育成教育」「教育復興支援」「企業支援ワンストップサービス」「災害ボランティアステーション」の4事業を実施してきました。2018年度は「この地で復興を考え・学ぼう」を掲げ事業を展開しました。

本学が担当している「復興人材育成教育事業」では、「県民講座」を開講し、本学、東北大学、宮城学院女子大学などから講師を招き30講座を実施しました。併せて、復興の現場を学ぶための現場実習（①石巻・雄勝コース、②東松島市・女川コース、③仙台市・荒浜コース、④名取・岩沼・山元・新地コース）を行い、学生に加え、たくさんの県民の方に参加していただき、好評を得てきました。そんな県民講座を、2019年度も幅広い内容で開講します。

本学では「企業支援ワンストップサービス」事業も推進しており、被災地域の方とともに地域や企業の再生、発展に向けた支援を実施しています。コーディネーターによる企業訪問をはじめとした相談対応の実施、地域や企業課題に対し、本学のシーズを生かした支援や他の学術研究機関とのマッチングなどによる解決に取り組んでいます。今後も、さまざまな課題に対し、支援、提言を行い地域のさらなる復興と活性化に貢献することを目指していきます。

一番町ロビーでの講座

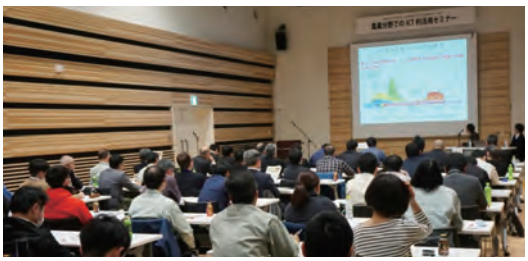
現場実習の様子

◆農業分野でのICT利活用セミナー報告

本学では、平成28年度から宮城県委託事業「地域ＩＣＴ利活用コーディネート業務」を実施しております。本事業では、地域企業の抱えている課題に対して相談窓口を設けICT活用による改善提案や導入に向けた支援を行っております。

この度、大崎市で5回目となるICTを活用したビジネス革新セミナーを、2月6日（水）、大崎市図書館を会場に開催しました。今回は「農業分野でのICT活用」をテーマに、本学工学部環境エネルギー学科 牧准教授、他3名の外部講師に講演いただきました。

本セミナーでは、昨今の農業におけるICT技術の現状を説明し、その中でリモートセンシングの有効性も紹介いただきました。牧先生からは、「ドローンを活用した水稲生育シミュレーション」の研究におけるリモートセンシング技術の活用について、実証データを基にお話しいただきました。本セミナーには、50名の方にご参加いただき、大盛況で終えることができました。

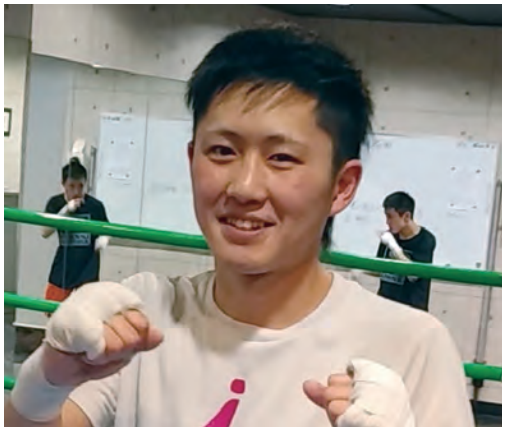


◆本学初のプロボクサー誕生！

教務学生課

都市マネジメント学科3年古里恭兵さんが1月31日に後楽園ホールで行われた日本ボクシングコミッションプロテストに合格し、ボクサーライセンス（C級）を取得しました。古里さんは大学1年時からボクシングを始め、学業の傍らボクシングジムに通い、アマチュア経験を経て今回プロテストに挑みました。

平成30年度宮城県民体育大会ボクシング競技（成年バンタム級）で優勝するなど、アマチュアでも優秀な成績を残しておりますので、今後のプロボクサーとしての活躍にぜひご期待ください。



目標に向けて日々練習に励んでいます

◆秋保町野尻地区雪遊び体験の運営支援

伊藤　美由紀　安全安心生活デザイン学科　准教授

2月9日･10日、「秋保野尻の冬 雪遊び体験」が太白区秋保町の野尻交流カフェ「ばんどころ」（野尻集会所）にて、野尻いぐする会（野尻町内会）の主催で行われました。

本学科は、秋保雪ん子祭りとして行われていた頃から参画しています。これまでの開催目的や内容を検討し、2018年からは地元住民主体の季節イベントとして開催されることとなりました。開催目的は、地域内外の親子を対象に豊かな自然に囲まれた山里の文化を地域の人と交流しながら感じてもらい、その体験を家族の絆や子どもの教育につなげることとしています。

雪遊び体験は、そりすべり、かんじき、かまくら作り、郷土料理作りなどが催され、親子が事故なく楽しく体験できるよう、学生らが支援しました。

野尻交流カフェ「ばんどころ」前で集合写真

自然の中でそりすべり

◆合同企業説明会

キャリアサポート課

仙台市内の江陽グランドホテルにおいて、3月4日（月）および5日（火）の二日間にわたり、学部3年生、博士（前期）課程1年生を対象とした、本学独自の合同企業説明会を開催しました。

この説明会には、過去5年間に本学学生の採用実績を持つ企業・団体を中心に314社、631名の学生が参加しました。
参加企業の採用意欲は年々増しておりますが、それに応えるように多くの学生が事前準備を整え説明会に臨んでおり、その姿勢は企業採用担当者の方から高い評価を得ております。

また、初日となる4日（月）の午前中には、合同企業説明会に先立ち「進路指導集会」を実施しました。千葉則行就職委員長の開会挨拶にはじまり、今野弘学長から参加学生に対し就職活動に向けたメッセージが送られた後、外部講師による講演が行われました。

合同企業説明会は二日間にわたり開催

合同企業説明会に先立ち進路指導集会を実施

東北工業大学の"今"を伝える広報誌
工大広報 No.293 Spring 2019
2019年4月1日発行（年4回発行）
発行：東北工業大学
〒982-8577仙台市太白区八木山香澄町35番1号
TEL:022-305-3144（入試広報課） http://www.tohtech.ac.jp

平成30年度学位授与式

平成30年度学位授与式が、八木山キャンパス体育館において3月20日（水）に挙行されました。ご父母、教職員、ご来賓列席のもと学部生614名、大学院博士（前期）課程20名の代表に、今野弘学長より学位記が授与されました。

学部生代表の工学部建築学科後藤瑛さんと修了生代表のライフデザイン学研究科デザイン工学専攻木村一気さんが、今後の決意と家族、友人、教職員への感謝を込め、答辞を述べました。卒業生・修了生の皆さまの今後のご活躍を祈念しております。

平成30年度　学位記授与者

学部　合計614名

工学部　合計403名
- ■電気電子工学科 ……82名
- ■情報通信工学科 ……80名
- ■建築学科 ……123名
- ■都市マネジメント学科……54名
- ■環境エネルギー学科 ……64名

ライフデザイン学部　合計211名
- ■クリエイティブデザイン学科 …54名
- ■安全安心生活デザイン学科 …84名
- ■経営コミュニケーション学科 …73名

大学院　合計20名

工学研究科 博士（前期）課程 合計19名
- ■電子工学専攻……3名
- ■通信工学専攻……1名
- ■建築学専攻……9名
- ■土木工学専攻……4名
- ■環境情報工学専攻……2名

ライフデザイン学研究科 博士（前期）課程
- ■デザイン工学専攻 ……1名

topics

環境サークル「たんぽぽ」（ISO学生サポーター）メンバー募集中！

代表　佐藤（さとう）　天雅（たいが）　電気電子工学科 3年

環境サークルたんぽぽは、定期的な大学近隣の清掃活動や、他大学の環境団体と企業の方と連携しながら環境保全活動を行っています。

また、学内ではペットボトルのキャップや大学祭で使用する容器のリサイクルの推進、教室の消灯活動による省エネの推進などの活動に、現在40名で取り組んでいます。

たんぽぽは、学科・学年を問わず随時メンバーを募集中です。興味がある方は下記までお問い合せください。

【お問い合わせ先】
八木山キャンパス：1号館4階　総務企画課（ISO推進事務局）
長町キャンパス：4号館1階　長町校舎事務室

ピア・サポーターの紹介

ピア・サポーターは、カウンセラーから心理学やコミュニケーションの訓練を受けながら、過ごしやすい大学づくりをサポートしている有志団体です。

現在は、ひとこと相談や居場所作りのためのイベント開催を中心に活動しています。

興味のある方は一緒に活動しましょう。

詳しくは両キャンパスのカウンセリングルームまたはTwitterで「東北工大長町ピア・サポーター」と検索してみてください。

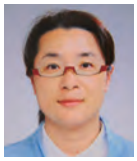
メンバーみんなで集合写真

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。
〒982-8577　宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1
東北工業大学 入試広報課
TEL：022-305-3144　FAX：022-228-1813
E-mail：kohositu@tohtech.ac.jp

column

猿渡（さるわたり）　英代子（いよこ）　ウェルネスセンター　カウンセラー

「ウェルネスセンター」



本学のウェルネスセンターは、平成18年に工大生の実り豊かな学生生活のために、心と身体のサポートをすることを目的とし設置されました。この「ウェルネス」とは、心身ともに良好な状態を表しており、学生の「身体の健康」と「心の健康」、そして「コミュニティ内での健康」をサポートするのが、本学のウェルネスセンターの特徴とも言えます。

八木山キャンパス、長町キャンパスには、保健室とカウンセリングルームがあり、それぞれに保健師（看護師）とカウンセラー（精神保健福祉士・臨床心理士）がおります。保健室は、年一回の健康診断や健康相談、必要に応じて病院の紹介、応急処置などを行っています。

カウンセリングルームについては、開室日時をホームページでご確認いただき予めご連絡いただくとスムーズなご相談につながります。

新年度に入り、新しい生活の中で不安や心配などありましたら、どのような些細なことでもお気軽にご相談ください。また、ウェルネスセンターは、心身の障害や慢性疾患をお持ちの学生の大学生活での配慮に関するご相談も受け付けております。

【八木山キャンパス】
保健室　022-305-3133
カウンセリングルーム 022-305-3130
【長町キャンパス】
保健室 022-304-5506
カウンセリングルーム 022-304-5587

前期の主な行事予定（2019年度）

4月
- 3日（水）　**入学式**
- 4日（木）～9日（火）　**前期オリエンテーション**
- 10日（水）～ 8月1日（木）　**前期授業**

6月
- 22日（土）　**オープンキャンパス**

7月
- 6日（土）・13日（土）　**前期補講日**
- 20日（土）・21日（日）　**オープンキャンパス**

8月
- 2日（金）　**前期補講日**
- 5日（月）～7日（水）　**前期定期試験期間**
- 8日（木）～9月13日（金）　**夏季休業**

9月
- 2日（月）　**前期成績発表**　**追再試験時間割発表**
- 3日（火）・4日（水）　**前期補習**
- 5日（木）～10日（火）　**前期追再試験**
- 17日（火）　**後期オリエンテーション**